
ロストアーツ・オンライン

辰巳

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ロストアーツ・オンライン

【Nコード】

N8062P

【作者名】

辰巳

【あらすじ】

PKやPKKが当たり前のように横行するゲーム

「ロストアーツ・オンライン」

主人公は「グラフィックが綺麗すぎてリアルと間違える」という言葉につられ、友人の誘いで参加する事になったが…

という話です

初めてなんで文章が稚拙で厨二要素も入っていますが、多めに見てくださいm(_____)m

感想や質問などもお待ちしてます

#0 キャラエディット

「はじめまして、私はルラと申します。このゲームの説明を担当されているNPCです、よろしくです」

俺は、友人の紹介でネットゲーム「ロストアーツ・オンライン」をプレイする事になった

新規キャラクター作成の項目を選ぶと、画像が切り替わり目の前にNPCが現れた

そこには青く暗く、果ての無い空間と、水色の髪をした少女がいた
「操作方法はもう覚えたから、とつととキャラ作らせてくれ」俺が
そう言う

「うう…説明スキップします…。キャラクターエディットですね」と、律儀に項目スキップした

「それでは、髪型と色、顔つきや体格、名前を設定してくれますか？」

彼女が左手首の腕輪のボタンを押すと、目の前に鏡が現れた
映るのはデフォルトキャラになっている俺だけ

俺は先日友人に言われた通りにあまり目立たない外見に変更した

「最後にクラスを選択です、どのクラスを選んでも装備やステータスには影響ませんが、キャラ固有スキルに影響します、選択は慎重にですよ？」

少し考えたあと、アタッカーを選ぶ、いわゆる戦士だ

「はい、あなたの固有スキルは「フェイタルエレメント」と「バリ
アステール」です。それでは、第2の人生をお楽しみくださいね」
彼女が微笑むのと同時に、景色が歪む

新しい人生の始まり…ねえ…

用語辞典

「ロストアーツ・オンライン」

日本代二位の規模を誇るMMORPG

「よりリアルに、よりファンタジーに」をキャッチコピーにしているPKが公認されている

とはいえ、それによるメリットは無く、さらに細かい仕様で単にレベルの差で一方的に倒すといったことができなくなっている

グラスディスプレイ推奨

かあていつくびーけー

「CPK」

有名PKを指す言葉

正式には「長期間ソロプレイで数多くのPCを倒した」を条件に公式サイトに公表されるPCのこと

ふげん

「普賢」

ギルド名

初心者の護衛や支援を目的に作られたマスターは女性PCの「ラグナ」

じひるこ

「光明」

ギルド名

美しさを求めるギルド

マスターは男性PCの「シェーン」

「金剛」

ギルド名

メンバー全員が物理能力に特化したギルド

マスターは男性PCの「大漢」

人物紹介

「ライ」

主人公、男性、本名「坂田 陸」

グラフィックを見るのが好きで、友人の紹介からこのゲームを始める
結構おバカだが、微笑ましい

短槍が得意

固有スキルはフェイタルエレメントとバリアステイル

フェイタルエレメントは与ダメージ時、非物理属性の弱点を自動的に突くスキル

バリアステイルは使用時、周囲の誰かの障壁を剥がしてダメージを与えるスキル

「ガイ」

ライのフレンド、男性、本名「常盤 謙」

主人公とはリアルでも交流があり、彼がロストアーツ・オンラインを紹介した

ギルド「普賢」に所属し、マスターであるラグナの右腕

長剣を使った近接戦闘スタイルだが、雷属性の補助魔法も使える

固有スキルはフルバーストとモーションアーマー

フルバーストは、残りHPが3分の1以下で発動可能、残りのMPとSTを全消費して強烈な範囲攻撃を与える

モーションアーマーは物理攻撃中、吹き飛ばし属性以外の効果を受けなくなる（ダメージは変わらない）スキル

「久那^{くな}」

有名PKK、女性、本名「高木 久那」

何故かPKに目をつけられやすい

追いつ返すうちに有名になってしまったと悩んでいる

短剣を一本づつ両手に持つテクニカルなスタイル

固有スキルはエンチャントとキャンセルスペル

エンチャントは下級魔法に限り、自身に装備して近接攻撃の時非物理属性ダメージを与える、装備した魔法はコンボ中のみ放出可能

キャンセルスペルは下々中級魔法に限り、近接攻撃後の硬直をキャンセルできるスキル

「ユカ」

ライと同じ時期に参加した、女性、本名「高見 優希」

一言で言うなら天然ボケ、ライと2人でパーティーを組むとエネミ

ーそっちのけで景色を見て回る

短杖を持っているが、振り回す姿はまず見ない

固有スキルはMPリカバリーとクーラスキップ

MPリカバリーはMPを自動回復するスキル

クーラスキップは回復魔法のみ、詠唱を飛ばすスキル

#1 始まりの町 ワルツ (ライ)

ワープした先は、雪国だった

ということも無く、初めの町にありがちな春のような陽気の草原、黄色い蝶と、緑の粒子が飛び交う

「はあ…」思わず感嘆の声をあげる、これまで携帯機器ぐらいしかプレイした経験が無いので、みとれてしまう

リアルと間違える程の臨場感、ゲームってここまで進化してたのか

「ああ…」再び俺が溜め息をついたわけではなく、隣の少女の声だ。つてか、いつの間にかいた

「…、あの…おい」と、呼んでも返事が来ない

どうやら自分の世界に入っている様子、なんか同じ匂いがする、暇だし観察しとこう

少女の外見はいかにも僧侶的な格好、クリーム色をメインに袖口などに薄緑のアクセントを使ったフード付きローブ

両端に飾りのついた青い短杖を持っている

体格は少し小柄で、髪は鈍い金色のロング、のんびりした外見だった

俺はその場に座り込み自分の能力を確認する

属性は土、近接系、防御関係が比較的高いステータスだ
武器は灰色の短槍、防具は軽装、レベルは当然ながら1

どうせアイツが来るまで動けないし、寝とこう

#1・1 始まりの町 ワルツ（ガイ）

「ラグナさん、俺、フレ待たせてるんでちょっと離脱しますわ」店番が終わると、予定より随分過ぎていた

主に俺の立ち話、メンバーには呆れられてるが気にしない

いや、お得意様のPCがすごく可愛いんだこれが

金髪ツインテのロリっ子、愛想がすごくいい

中の人が例えネカマだったとしても気にしないし気にならない

「この前誘うって言ってた新規かい？」ラグナさん、このギルドのリーダーが反応する

美人で姉御肌のシューターで弓を使う、赤い色がトレードマークだ

「そーなんすよ、ついでに他の新規も連れて来ます」

こんな感じで友人、この世界で言う「ライ」に会いに行く

サーバー名は教えといたから、あそこに行けばすぐ見つかるだろ

「おーい、ライー…って寝落ちかよ！」

リアフレである陸ことライが大の字になって寝ている

それも隣に他のPCまで寝てるし、シユールすぎる

しかし可愛いなこの子、でも起こさないとな

こっそりしたままSCを撮った後、二人を揺さぶる

ちよつとした感覚をリアルな情報で伝えることのできるこのゲームは、とても便利だ

簡単に言うとゲーム内で誰かに触られれば、触られたカンジがする
ってこと

「んだようるせえな謙のクセに……」「リアルの名前を呼ぶなよ、こ
っちの俺、向ここの俺だから」

「まあ、全然違うわな」ライが横の子を揺さぶる

「その子は？」

「シラネ、話は合うぞ」

「ふーん」とか言いながら、勝手にSCを撮る

「勝手にいいのかよ」「いいんじゃない？」「後で見せろよ」

「ほいほい」俺は快諾

別にパンチラとか怪しいSCを撮ってるわけでもなく、綺麗を求め
るショット

俺の、単に芸術として撮るスタイルは目の前にいる友の考えと似て
いた

「このゲーム、SCにアイテム使ったよな」ライの質問

「そつだよ、適正レベル20のエリアのレアドロップ、消耗品じゃ
ないよ

明日休みだし、すぐ取れるね」

「おーし、俄然やる気出てきたあ！！」 「おお……」 ライがバカモードに移った

#1・2 始まりの町 ワルツ（ユカ）

「う…」疲れていたのか、眠ってしまったようだ

私はいつの間にかゆらゆら揺れる誰かの背中に背負われていた

「お、起きた？」私を背負っている誰かは、色黒で、筋肉で、大きかった

「あ…誘拐？」

「誘拐って人聞き悪いな。保護だよ、保護」彼は、ぶっきらぼうな感じのしゃべり方だ

「お家に返してもらえますか？」

「お家って…ネカフエでもやってるの？」

ネカフエ…？

ここ草原みたいだけど、どこだろう

でも、悪い人じゃなさそうだし、多分言った通り保護してくれた人だろう

「保護されるようなことしてました？」

「いや、別に理由なんてないし、単にアイツが隣にいたからだよ」

「え？」肉男さん（命名）が向いている方向を見る、そっちには

「どはは！どけどけえ！！」と言いながら何かを叩いている

その何かはこう…水色で…形が整ってない、泣きながら逃げ回っている物体だった

その物体を眺めていた私はようやく状況を理解した

私、さつきからゲームやってたんだった

コントローラーも何も使わないし、メガネみたいな機械の画面でやってるから現実との区別がつきにくい

よく見たら左下に私のステータスが表示してある、レベルは1

「おい、そろそろ回復アイテム切れ——」「はははは！シネ、イネ、砕けろおお！！！」

ずどどどどごーん

黒髪の彼は、すごい音を立てて武器を地面に叩きつけている
衝撃と爆風で水色がポンポン空を飛ぶ、なんかちょっとかわいそう

「うわ…」私がそうもらすと

「はは…」と肉男さんが笑う

「とまあそれはともかくさ、君は回復系魔法使える？」

見たところそういうのが得意そうな格好だから」

「ん…ちよつと待ってください…」

何がともかくわからないけど、そう聞かれたのでステータス画面を開いた、説明書に書いてあったように操作して、スペル画面を開く
私が覚えている技は…

「えっと…クーラっていうのなら覚えてますよ」覚えている使えそ

うな魔法は、下級治癒呪文だった

「そう。ならあの暴れてる槍使いにかけてくれる？」

肉男さんが私に頼んでくる、なんだかむずかゆい

「えと、こうかな？」パシユッ

ライさんの足元に青色の魔法陣が現れ、彼の緑ゲージが増えた

「すごい…詠唱を省略した」私の回復魔法に肉男さんは驚く、でも私は言っている意味がよくわからないので曖昧に微笑む

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8062p/>

ロストアーツ・オンライン

2011年10月8日08時09分発行